



# 学校だより

平成 27 (2015) 年 2 月 14 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《長い夏休みが終わり、4学期が始まりました！》

南半球、ニュージーランドにある本校も長い夏休みが終わりました。こちらの夏は太陽の沈む時刻が遅く、夜9時を過ぎても明るいため、子どもたちは屋外で遊ぶことができます。今年は例年より雨が少なく、芝生はいつもの元気を失っているようですが、日本の夏と比べると湿度が低く、快適に過ごすことができます。

この夏休み期間中に、子どもたちは家族との旅行や自然体験、日本への一時帰国など、様々な体験をしたことでしょう。普段体験できない活動や見聞を通して、子どもたちは豊かな感性を育み、多様な社会での生き方について学ぶ機会も多かったのではと思います。

4学期は、1年間の総まとめをする大切な時期でもあります。学習内容は、学齢とともに高度化していきますが、教科書はすでに学習した内容を基に、さらに詳しく学ぶことができるようになっています。お子さんが学習内容の理解が進まない場合、前年度に学習した教科書で復習することは、良い方法でもあります。学齢に応じた国語力を身に付けるため、国語科の教科書が編集されていますので、家庭でも大いにご活用ください。

言葉の意味や文章を読み取るための方法は、学齢に応じたスキル学習も必要です。国語の辞書を用いて言葉の意味を調べたり漢和辞典を使って漢字の組み合わせを調べていくのも、お子さんの国語に対する興味・関心を引き出し、学習意欲を高める方法でもあります。日本語で考え、それを文章に書いて考えを整理し、さらに発表を通して聞いている人に分かりやすく伝える工夫が、国語（日本語）力の向上にとって大切なことです。補習校で学ぶ子どもたちは、様々な学習場面を利用して発表する機会があります。この機会を積極的に生かし、国語（日本語）力の向上に役立てていきたいものです。

ところで、ある担任から「今年の夏休みの宿題は、クラスの子どもたち全員が提出することができました。」「数年前と比べ、家庭で子どもの学習指導に注ぐ保護者意識の高まりを感じます。」という話を聞きました。日頃からの担任による指導とともに、保護者皆様のお子さんを思う強い信念とご指導のお陰だと思います。ありがとうございます。

補習校は、集団で学び合う場でもあります。子どもたちには国語（日本語）力の違いがありますが、ともに国語（日本語）力の向上を目的に、補習校へ通って来ています。そのような子どもたちに確かな学力を身に付けさせるため、今年度、研究テーマ「自ら考え学び合う子どもをめざして～伝え合う力を育てる国語科の授業～」を掲げ、全職員で授業研究実践を重ねています。教員一人ひとりの授業を全教員で観察しながら、研究テーマにせまる授業として、良かった点や改善すべき点を研究協議会で指摘し合い、互いの話し合いの中から工夫と改善を見つけ出し、明日からの授業につなげる取り組みを行っております。授業改善の取り組みを永続的に行うことで、各教員の授業力を向上させ、子どもたちに確かな学力を身に付けさせることになると考えております。

4学期は、子どもたちが卒業式の練習を通して、大きく成長する機会でもあります。今学期も引き続き、保護者皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

《中学部3年生卒業キャンプ、小学部6年生社会見学  
・・・楽しい思い出がいっぱい！》

夏休み期間中ではありましたが、中学部3年生の卒業キャンプは1月27日（火）から1泊2日の日程で実施しました。昨年同様に、スプリングフィールドにある「スマイリーズ アコモデーション」で行われました。1日目は、キャッスル・ヒルでの散策と昼食、その後、レイク・リンドンでのカヤックと、活動的体験に取り組みました。キャッスルヒルは、過去に海底から隆起した岩盤が白っぽい巨岩（石灰岩）として残ったものです。生徒は、羊の鳴き声を聞きながら大自然を楽しんでいました。

その後、レイク・リンドンでカヤックの実習を行いました。指導者は、昨年に引き続きダーフィールド高校の先生にお願いしました。ライフジャケットの装着を確認した後、パドルの漕ぎ方、バランスのとり方を事前に指導されました。湖の浅い所で、パドルの漕ぎ方によって進む方向が違ったり、重心の移動でカヤックが傾いたりすることを、実際に体験しながら学び、生徒が体得できるまで指導していただきました。カヤックは balan



スを崩した場合、カヤックごと引っくり返るため、安全を配慮してライフジャケットを身に付け、水着を着用することになります。今年は、夏の日差しを浴びながらのカヤックでした。そのため、湖から出ても寒さを感じることなく、初心者向けカヤック指導には最適の湖でした。

夕食の準備は、生徒たちの手によるカレー作りです。人参を刻む人、玉ねぎの皮をむいて刻む人、じゃがいもを細かく切る人。3人が分担して調理をする姿は、日本の学校での家庭科調理実習を思い出します。お互いに分担しながら作ったカレーは、とても美味しく、最高の味でした。夕食後のランプゲームも、互いに思いやりを大事にしながら、楽しむことができました。

2日目は、朝の散策、朝食。その後、サイクリングへと出かけました。私は、昨年の苦しさを思い出しながら生徒の後に続きました。生徒は上り坂でも歩くことなく、快適に自転車を進めていました。サイクリングコースでは車にあまり出会うこともなく、大自然の中で、生徒はのびのびとサイクリングできる楽しさを感じたようです。「スマイリーズ アコモデーション」には、同じ柵の中で羊、アルパカ、豚が飼育されています。アルパカや豚は人に慣れているのでしょうか、好物の餌をあげると喜んでそばによって来ます。しかし、羊は警戒心が強いのでしょうか、人に近付くことなく離れた所でしきりに鳴いていました。日常生活では、なかなか動物に餌をあげたり、体をなでたりすることはできませんが、「スマイリーズ アコモデーション」では動物との触れ合いができ、心を和ませてくれました。

1泊2日の自然体験活動でしたが、生徒は友達との絆を一層深めたようです。恵子さん、コリンさんには、親身になって対応していただき、補習校生活の楽しい思い出を作ることができました。ありがとうございました。

小学部6年生の社会見学は、1月29日(木)、リビング・アースとクエル・アイランドへ行ってきました。出発前は、雨も降るあいにくの天候でしたが、途中から空も明るくなり、リトルトン港に到着した頃には青空が一面に広がっていました。リビング・アースは、食べ物や野菜・果物の残菜、芝や雑草・小枝・落ち葉などの自然ゴミを発酵させ、堆肥を製造する工場です。クライストチャーチ市の各家庭の緑ボックスに入っている自然ゴミが、全てここへ集まってきます。6年生の子どもたちは、こちらに勤務されている東さんに説明を受け、自然資源の有効活用を知り、地球に優しい生き方の一端を学ぶことができました。子どもたちに分かるよう優しく説明をいただき、さらに質問にも丁寧にお答えをいただきました。東さんには、ご多忙の中、貴重な時間をさいていただき大変感謝しております。子どもたちは、こちらの職員皆さんに失礼のないよう礼儀正しく、お礼の言葉を述べておりました。

その後、リトルトン湾に浮かぶクエル・アイランドへ向かいました。片道約10分の船旅ですが、暫し海からの眺めを楽しみました。島にわたってから、徒歩10分ほどの昼食場所へ直行しました。大きなビニルシートに全員が腰を下ろし、思いおもいに昼食をいただきました。昼食場所の海岸は、少し入江になっており、外洋の影響はあまり感じさせない静かな海岸でした。波打ち際の白い小さな貝殻は、太陽の光を浴びてまぶしいほど鮮やかに輝いていました。昼食後、班ごとにまとまりながら島内一周に出発しました。先頭は担任の先生で、最後尾は私と写真係の保護者2名です。見晴らしの良い所や案内板のある所、さらには島の歴史博物館などで休憩を取りながら、島の自然や歴史を学ぶことができました。6年生の友達との関係やまとまり、さらには集団行動の様子等も観察できました。補習校ではなかなか気付かない、個々の子どもたちの生き生きとした姿もたくさん垣間見ることができました。社会見学を通して、より良く成長してきている6年生であることを感じました。小学部卒業に向けて、楽しい思い出づくりができました。

最後になりますが、夏休み期間中に行われた中学部3年生並びに小学部6年生の「宿泊体験活動と社会見学」は、宿泊施設や関係機関・施設、輸送業務等たくさんの方々のご理解とご協力によって、お陰様で無事実施することができました。今回の課外活動を通しまして、子どもたちが互いに明るく元気に、そしてより良く生きようとする強い気持ちがよく分かりました。保護者皆様には、日頃からのお子さんへのご指導に感謝申し上げます。ありがとうございます。

《補習校教育活動へのご寄付に感謝申し上げます》

寄付金をいただいた企業名は以下の通りです。

- ANZCO Foods
- Daiken New Zealand
- TJK NZ
- KISCO FOODS INTERNATIONAL

総額は\$3,500です。誠にありがとうございます。

今後も補習校教育活動の充実に取り組んで参ります。

